

## 介護に参画する意識と態度を育てる番組活用

千葉県千葉市立小谷小学校 教諭 横山 亮一

### 小学校5年 総合的な学習 げんばるマン

#### 番組の特徴

キャッチフレーズは“現場に出かけ現場に学ぶ”。お笑いコンビが「げんばるマン」として、さまざまな「現場に」出かけ、世の中のしくみを学んでいく。テーマは「健康・福祉」「環境」「伝統文化」「防災」。NHKならではの貴重な映像も駆使しながら、取り上げている。

#### 研究の概要

高齢者が、介護が必要になっても、住み慣れた地域や住まいで尊厳ある自立した生活を送ることができるようするために、どのような支援があり、どのように行われているのか、番組を活用することで、問題意識を高め、調べる内容の糸口が見つかった。子供達は次々に保健医療や福祉サービスの確保について調べていった。また複数番組の視聴によって、介護の在り方を多面的に考えることもできた。

#### 授業デザイン（1 単位授業時間）

単元：お年寄りをチームで支え、ケアをしていこう  
目標：チームケアを行う上で多業種との連携が欠かせないことを調べ整理する。

導入	お年寄りのための施設「高齢者施設」にはどのような種類があるか学ぶ。
番組視聴	“いのち”を支える仕事 ずっと家で暮らすには 福祉施設（知トク地図帳）
課題把握	学習課題「介護の仕事を知って自分たち にできることを考えよう」
自力解決	専門の技術や知識をもった介護職と呼ばれる 多くの人々が働いている。イメージマップ
協働解決	ホームヘルパー、ケアマネージャー、介護福祉士、理学療法士、言語聴覚士、視能訓練士、社会福祉士、栄養士、看護師、保健師などの仕事内容を調べ共有する。
まとめ	介護職の内容を整理する。 介護職の連携について整理する。 自分たちにできる事柄を発表する。 お年寄りに寄り添う態度を学ぶ。サポーター養成



#### 番組や関連動画クリップの活用意図

##### 課題を持つための番組視聴

介護の必要なお年寄りとの交流を計画したり、実際に行ったりする中で、生活を支える人、支えられる人の思いがあることに気づき、身近な地域で暮らす人への自分のかかわり方を考えることができるように。

##### 自力解決のためのクリップ

「介護の現場」には、お年寄りを支えるために専門の技術や知識をもった介護職と呼ばれるたくさんの人々が働いていることを知るため。

#### 授業デザインにかかわる教師の工夫

##### 老人ホームとの交流

お年寄りと一緒に暮らす家庭が少ない今、お年寄りを理解し交流できる絶好の機会とした。訪問に際し生まれた疑問を話し合い、調べたことを予備知識として共有し、交流に臨んだ。

##### 複数番組の活用

全体のイメージマップを黒板にまとめ、さまざまな支援の形について理解できるようにした。「知トク地図帳・福祉施設」を視聴し、24時間体制で介護する人々の苦労や仕事のやり甲斐を考えさせた。

##### 認知症サポーター養成講座

認知症の人の「応援者」となり、温かい目で見守る人となることを学び、自分たちも介護に参画する意識と態度をもつようにした。

#### 生き生きと学ぶ子どもの姿

##### 子どもの自己評価から

- 介護福祉士はお年寄りが楽しく過ごせるように工夫している。
- 多くの介護職があり、それぞれがチームとなってお年寄りを支えていることがよくわかった。
- ひとりでも自分の家で過ごしたいお年寄りの気持ちがよくわかる。だからこそチームケアは絶対必要だと思った。

##### 同僚の評価

- 老人ホームとの交流にあたり、どのような態度で臨むか授業を通して学んでいく様子がよくわかった。
- 複数の番組を連続で見た場合（今回）と活動の間に順に視聴した場合との意識や態度の変化を知りたい。

#### 実践を終えて＜行動宣言＞

老人ホームとの交流、視覚・聴覚、車いす体験などの実体験活動を行いながら、番組視聴をすることで問題意識が高まり、調査目的のはっきりしてきた。さらに詳しく調べていく過程で新たな疑問が生まれ、友達と協力しながら調べていく姿が見られた。学年や教科が違っていても内容の共通点のある番組を視聴することにより、大単元の組み立てに効果があった。今後も番組視聴と連携させながら、地域でできる内容を探し、深めていきたい。